第１回公共施設経営推進委員会会議メモ

１　日　時　　平成 27 年 8 月 7 日（金）　10：00～11：30
２　会　場　　鳥取市役所第２庁舎　５階　会議室
３　出席者　　≪委員　７名≫
　　谷本委員長、渡邊副委員長、
　　稲垣委員、太田垣委員、懸樋委員、津中委員、南條委員
　　≪事務局　６名≫
　　秋山総務調整監、梶課長、宮谷係長、加藤主任、青木主任、松尾技師
　欠席者　　油野委員

４　会議内容

（１）開会あいさつ
　秋山総務調整監

（２）委員・事務局紹介
　梶課長より各委員及び事務局の紹介

（３）委員長・副委員長選出
　委員より、選出にあたっては事務局に一任するとの声があり、事務局案として谷本氏を委員長、渡邊氏を副委員長に推薦
　委員の異議なしにより確定、選任にあたり、谷本委員長より挨拶

（４）委員長あいさつ
○谷本委員長　　鳥取市は市町村合併をして施設が増え、人口減少する地方都市である。
　公共施設（ハコ）＝サービスということではない。
　この委員会では、施設経営を進めるということで、ハコがなくてもサービスを提供する代替案などについて意見を出していけたらと考える。
　委員の皆さんはそれぞれ立場があると思うが、この委員会のミッションは、何かを決めることではなく、意見を出すことであるため、前向きに柔軟な意見を頂きたい。

（５）確認・報告事項
　① 会議の公開等について
　宮谷係長より、資料１について説明

　② 鳥取市が進めるファシリティマネジメントの取り組み
　宮谷係長により、パワーポイントを使用した説明
　その後、資料２について説明。資料３、４は確認のみ。

（６）議　事
　① 鳥取市公共施設再配置基本計画（仮称）の策定について・・・資料５参照
　宮谷係長より、資料５について説明

○懸樋委員　　公共施設は必要があって造られたもので、それぞれに目的がある。
その目的が達成されたかどうかが分からないと、「施設を減らす」と言われても納得できない。
公民館に福祉関係を入れて○○センターにするという所もあるが、職員のあり方にも関係する。
公民館職員もあれこれできないし、仕事が増えるともたない。
地域活性化につなげるためにも、必要なものは必要である。
施設を減らすことより、まずは職員数を減らすことなどを考えるべきではないか。
減らす施設が想定されているのか知らないが、アンケート結果があって、その結果から総論が作られ、すぐに減らそうというのは乱暴である。

●事務局　　施設を具体的にどうするかは、これから実施計画を作る段階で考えていく。
実際に施設を見直す場合には、利用状況の分析や、利用者の意見聴取なども必要となってくる。今回の計画は将来に向けた方向性、更新が必要となった場合にどういった考え方で進めるのかを示すものである。

○谷本委員長　　全てを総論で当てはめることはできないが、各論ばかりの話をしてもいけない。
やはり総論がないといけない。
事務局としても一つの基準がほしいのではないか。
基準がないと、法律がない中で裁判をするようなもので、それは最もやってはいけないこと。
４０年間という期間の中で考えていく必要があり、総論として、「今のままのやり方を続けていくことはできないだろう」ということが言える。

○稲垣委員　　１人あたりの施設㎡が載っている。
若者定住などを考えても、施設が少ないと魅力がないと取られるのではないか。
施設を減らしすぎても不便になるので考える必要がある。

○渡邊副委員長　　自治会委員として各種の審議会等に出席することが多いが、いずれの会も鳥取市の施策の充実向上に向けた計画がまとめられている。
例えば、学校の統廃合を進めるにしても、地域に学校を残したいという地元の気持ちも理解できる部分もあるが、本委員会の方針とは異なっており、これらの整合性はどのようにして図られるのか。
また、効率的といえば、山口や兵庫では一部を除いて地区公民館はなく、地域交流センターが中学校区単位で設置され、ここでは生涯教育、行政サービス、福祉関連等の一部が行える複合センターとして、行政職員と地区住民により運営され、敬老会や文化祭などの行事も行われている。
このようにエリアを拡大して効率化を図るのも良いが、一方、地域振興のためには地区公民館は必要であり、効率性なのか、活性化なのかで考え

方も変わってくると思う。

○懸樋委員　　４０年後も中山間振興をするのかどうか。
中山間地域を残すか、切るかということで考え方が違う。
田舎には田舎の考え方がある。
アンケートを実施しているが、アンケートに回答したのはまちの人で、施設やむらのことをわかっていないのではないか。

○谷本委員長　　施設が減っても、ないならないなりにサービスを維持していこうという考えだと思う。

○津中委員　　各施設は、当時必要だったから造った。
造るにあたっては、用地買収や地権者との調整、事業費確保など、さまざまな苦労があった。
そこを検証しないといけない。
要らない施設はどんどん減らす。
更地にしていけば最も良いと思うが、当時にどのくらいの苦労があったか、当時の書類を見たのか。
将来のことばかりを言ってもいけない。

●事務局　　座談会などで市民から意見を聞くと、参加者のほぼ１００％が、市の施設経営の方向性に賛同してくれている。
施設のあり方を検討していく上では情報を出して、透明性を重要視している。
施設の更新経費など、どちらかというと行政があまり開示してこなかったデータを含めて施設の更新問題等について市民に報告しており、そうしたデータを出すことに対して「知ってよかった」「出してくれてありがたい。知ることが大事」といった意見をいただいた。
実際にレーク大樹を売却した例があるが、当時の資料なども見ながら地元とも相談しており、情報を隠さずにやっていきたい。

○懸樋委員　　こうした議論をするということはデータが揃っているのか。
一律に施設を減らしてサービスを落としては意味がない。まちとむらの違いを考えるべき。

●事務局　　施設白書を作成した時点でデータは把握している。
細かいデータも施設所管課が持っている。

○稲垣委員　　しっかりと吟味する必要がある。
例えば、ステージ（施設）の利用が少ない場合でも、「ステージを使う用が無い」ということではなく、「あのステージ（設備）では使えないという声もある。直せばもっと利用される施設もあると思うので検討するべき。

○渡邊副委員長　　小規模の地区体育館や施設等は、利用する時間帯が決まっている所が多

いので、空いている時間をどう使うか有効活用が大事と思う。いい体育館であれば、遠くても地区外の人も使いに来るが、小さい体育館は空いている状況ではないか。
　学校等も子供が減り空き教室用をどう使うか、開放可能な室も含めて地域住民等が使えるようになれば良いと思う。
　地区でも、公民館の耐震化工事をしており、今秋は利用できないので、地区の小学校を開放してもらって、公民館と地区の祭りを開催するよう計画している。

○谷本委員長　　できることはやっていけばいい。
　この委員会で意見をまとめることは無い。
　様々な立場から、施設経営を進めるにはどうすべきか、提案やアドバイスなどを出し、それを事務局（市）が計画に反映させていく。

○太田垣委員　　学校の施設は時代に合っていないと感じている。
　たしかに夏に学校は空いているが、クーラーがないし使える状態にない。
　クーラーがあれば夏休みに学校が宿泊で使えるとか、設備が整えればもっと活用できる。

○南條委員　　人口は減るが、高齢者や要介護者は増えている。
　必要な所に必要なお金をかけるようしてほしい。
　施設を改修する際に障がい者の声を活かすことも必要。
　集会所を地元譲渡する際に、改修費３０万円がもらえるため、地元集会所ではトイレ改修に充てた。
　集会所は地域住民が集まる福祉的な側面もある。
　大規模改修時には市から補助があるが、少人数の集落では負担が難しい。
　地域への配慮をお願いしたい。
　介護施設も老朽化が目立つ状況にある。福祉にお金をかけるように検討してほしい。

○稲垣委員　　県立美術館を鳥取市に誘致するように取り組んでいる。
　施設を県に建ててもらうことも大事な視点。
　市としても努力をすべき。

○谷本委員長　　県と市が連携して施設を設置するという視点は大事である。

（７）その他
　① 公開講演会の開催について
　② 謝礼の取り扱い

（８）閉　会